



Photo by Hiroshi Takasugi

“安全と勇気”

園長 高杉 洋史

久しぶりに古くから知り合いの体育の先生と話す機会がありました。

オリンピックの話もさることながら、幼児の鉄棒の話にびっくりしました。本園の在園児のみなさんは外遊びが大好きで、鉄棒もブランコも縄跳びもボール遊びも竹馬も上手なので、心配はしていませんが、その先生の話によると、燕のスタイル(鉄棒で両腕を伸ばして体を支えるスタイル)のできない子が増えているとのこと。できないタイプに2種類あり、腕の力が足らなくて体が支えられない、もしくは腕を伸ばしきれないタイプ、もう一つは足が地上から離れることに恐怖があり、地上から足を離さなかったり、両腕で体を支えても足は鉄棒の支柱に触っていないと安心できないタイプです。そしてなぜこんな簡単そうなこともできない子どもが増えてきたかという訳なのですが、子どもたちの周辺から鉄棒が少なくなったからではないかという推理をその先生が話してくれました。そういえば最近の都会の公園は大人向けになり、ベンチはありますが鉄棒もブランコも砂場も目立たなくなりました。自家用の鉄棒をお持ちのご家庭はめったにないでしょうから、子どもたちの経験値が低下するのもさもありなんです。

さて先日、2歳、年長、1年生の孫と園庭で遊び、ブランコの乗り方を観察していました。上二人がブランコをよじってくるくる廻って遊ぶのです。実は在園児にもこの遊びの好きな子がたくさんいます。2学期も半ばを過ぎると教諭も子どもたちの運動能力がわかっていますので、黙認というか見守っています。安全が一番大切、一方、子どもたちの能力や発想や挑戦する気持ちを育てることも大切、親も幼稚園の先生も教育の難しさをかみしめつつ、勇気をもって前進しましょう。